



CITY



UNIVERSITY

Vol.28
October 2018

CONTENTS

●P1 特集

6月大阪北部地震、7月西日本豪雨、9月台風21号・北海道胆振東部地震、

災害が続く今 CERDに聴く!

●P3 文学部に新学科誕生!

文化構想学科ではこんなことが学べます!

●P4 展示会レポート

イノベーション・ジャパン 2018



OCU TOPICS

- P5 RESEARCH / 津田 昌宏 講師 (医学研究科)
- P5 EDUCATION / 文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択
- P6 RESEARCHERS / 丸 信人 准教授 (理学研究科)・野村 恭代 准教授 (生活科学研究科)
- P6 STUDENT ACTIVITIES / 応援団とコンサートバンドが地域の皆さまと交流!

OCU INFORMATION

新法人の理事長予定者が決定 / 市大グッズ情報 / 大学サポーターだより

6月大阪北部地震、7月西日本豪雨、
9月台風21号・北海道胆振東部地震、

杉本キャンパスや
植物園では
倒木などの
被害が発生



災害が続く今

CERD (都市防災教育研究センター) に聴く!

サード

平成最後の夏となった今年、日本列島は思いがけず多くの災害に見舞われました。
本学も9月の台風21号では建物や樹木に被害があり、災害の恐ろしさを目の当たりにしたところです。
新体制となったCERD (都市防災教育研究センター) の所長・副所長に災害や防災について話を聴きました。



今年の夏は、西日本豪雨、大阪北部地震、台風21号、北海道胆振東部地震など、地震や強風による被害が発生しました。CERDでは、地域コミュニティの皆さんとともに、地区の防災力の向上に向けて取り組んでいます。今回の各種の災害に関して、これまで関与させていただいた地域コミュニティがどのように対処され、CERDとともに行ってきた防災力向上への取り組みがどのように効果が

あったのか、どこに問題があるのかをフィードバックする良い機会と捉えています。今後、これらの地域コミュニティや関係の区役所などにヒアリングなどを行い、より良いコミュニティ防災のあり方を模索していきます。

三田村 宗樹 センター所長
(理学研究科教授)



最近の活動より

「東住吉区・防災まち歩き」を開催!

2018年6月3日(日)、地区防災計画や防災拠点整備に対応できる防災リーダーやプランナーなどの人材育成を目指す「コミュニティ防災教室」の一環として「東住吉区・防災まち歩き」を開催しました。当日は講座受講者や区役所の防災担当者など約10名が参加しました。

約5キロのルートを実際に歩き、災害訓練ARアプリを活用しながら地域に潜んでいる災害リスクや、普段は見過ごしてしまっている防災設備・施設などについて確認。午後からは、東住吉会館内の会議室にて、それぞれのグループが収集した情報を既存の防災マップに落とし込むとともに、この地域で想定される災害リスクや対応すべき課題について意見を交わしました。



ドローンによる被害状況調査を実施!

2018年9月台風21号発生後、吉田大介兼任研究員(工学研究科准教授)と畑直成特別研究員がドローンによる空撮支援で被害状況を調査しました。

昨年11月に連携協定を結んだ大阪市港湾局と協力し、今回は大阪南港の魚つり園護岸、舞洲シーサイドプロムナード、咲洲コスモスクエア海浜緑地などを撮影。普段は魚釣りを楽しんだり、綺麗な夜景が見られるスポットですが、至る所での倒木や流されたブロックが散乱するなど、甚大な被害を受けていました。





Q

大雨、台風、地震、津波など、大規模災害発生時の“水”による被害が注目されています。大阪では、どういう被害が考えられるでしょうか？

A

短時間で猛烈な雨が降ると、下水処理施設を通じて雨水を流すことができず、マンホールから水が溢れてまちが冠水する内水氾濫が起こります。長期間にわたって激しい雨が降ると、川を流れる水の量が増えて堤防を越えて、あるいは、堤防を破壊して水が居住空間に溢れてきます。これが外水氾濫です。前線や線状降水帯などが停滞しているときに台風が接近すると、外水氾濫の可能性が一層高まります。台風が大阪湾の西側を北

上して通過すると、海水面が高くなり高潮が発生しやすくなります。高潮が発生すると、河口付近の川の水位も高くなるので、長雨と高潮が同時に発生すると河口域では河川氾濫の可能性が高くなります。南海トラフ巨大地震の発生の可能性も年々上昇しています。この南海トラフ巨大地震が発生すれば、大阪湾にも津波が襲来すると推定されていることは皆さまご存知のことと思います。

重松 孝昌 副所長(都市防災研究担当・工学研究科教授)



Q

人的被害をゼロにするため、普段からどのようなことに気を付ければよいでしょうか？ 屋内、屋外それぞれの注意点を教えてください。

A

阪神・淡路大震災や熊本地震のような直下型地震では、家屋の倒壊や家具の転倒で多くの死傷者が発生しました。また、これらの地震は人が最も無防備な就寝時間に発生しました。住宅の耐震化や家具の固定は必須ですが、すぐにでもできる対策は、建物が倒壊した時に死傷するリスクの低い2階を寝室とすることや、寝室には家具を置かないといった対策です。さらに、

北海道胆振東部地震でも大きな被害の発生した土砂災害にも警戒が必要です。自宅が土砂災害警戒区域等の場合は、被害を受けにくい室を寝室とする等の対策があります。屋外にいた場合は、瞬時に周辺の建物や塀等の倒壊を予測し、安全な場所へ退避することです。

生田 英輔 副所長(地域貢献担当・生活科学研究科准教授)



Q

今後南海トラフ巨大地震も起こると予想され、防災教育の重要性が叫ばれています。防災教育の現状と課題について教えてください。

A

地域住民が災害時に適切な防災行動を取ることができるようになるには、平時からの防災教育が必要になります。現在、日本各地で防災研修やイベントが多くなされていますが、「参加者が少ない」という問題を耳にします。これにはさまざまな原因が考えられますが、「防災について学ぶことが災害時に大いに役立つ」ことを参加者が実感できるような教育プログラムが必要なので

はないかと思います。また、防災研修・イベントには1回きりのものが多いのですが、学んだことを維持するには継続的に実施する必要があります。地域で防災学習を継続的に行うことは、参加者同士の人間関係の構築を促し、有効な「共助」の可能性を高めることが期待できます。

佐伯 大輔 副所長(コミュニティ防災教育担当・文学研究科准教授)



文学部に新学科誕生！

文化構想学科では こんなことが学べます！

Faculty of Literature and Human Sciences
Department of
Cultural
Management



学部長より

文化は、人間が豊かな人生を送るために欠かせない大事な資源です。では、人間が文化を生かした社会生活を送るにはどうすればよいのでしょうか。そもそも文化の本質は何かを研究することも大事です。私たちが考える「文化構想学」とはそういう学問です。

文化の歴史、未来、かたちを学び、現実社会のなかでどう生かしてゆくか考えることが、文化構想学科での教育・研究のテーマとなります。本学科の卒業生が、自治体の文化行政の舞台で活動したり、企業が文化を発信する際に構想を提供できる人材として飛躍することを期待しています。

仁木 宏 学部長



2019年4月、文学部に新学科が誕生します。

文化構想学科では文学部が培ってきた人文学の豊かな伝統に立脚しつつ、その知見を今日の文化実践に応用し、新たな文化の創出に寄与する力を養います。

文化は、人々の創造力や感性を育むことで豊かな人間性を涵養するとともに、来たるべき社会の新たな価値を創出し、他者との共感を通じた相互理解を促進することで、共生的社会の基礎を築きます。

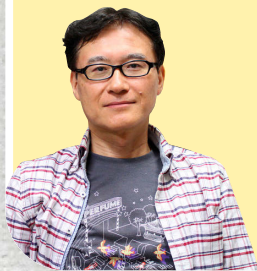
文化構想学科は、現代社会で必要とされる文化への理解を深め、文化的事象が社会に及ぼす力を積極的に活用することで、現代社会が抱える諸問題の解決に取り組み、21世紀型成熟社会を文化の面から担う人材を育てます。



表現文化 コース

現代社会の多様な文化現象を「表現」という切り口から考察します。この「表現」には、文学、美術、演劇、写真、映画だけでなく、ポピュラー音楽、マンガ、アニメーション、ゲーム、ファッション、広告、ダンス、さらにはオンライン上の多彩な創作活動が含まれます。表現文化コースでは、これらの「表現」を歴史・社会・メディアという3つの観点から、理論的な知見を踏まえた上で分析します。文学部が培ってきた文学・芸術・文化の基礎研究を受け継ぎながら、それを今日の文化実践に応用し、新しい文化を構想する力を養います。学生には、各自の関心を深めるとともに、それを相対化する力を期待します。

野末 紀之 教授



アジア文化 コース

アジア文化コースは、アジアに対する深い共感と専門的な知識をもとに、地域の特性に応じた文化の活用を考えるコースです。心豊かな暮らしのためにアジアの多彩な文化を生活に取り入れる…、アジアの文化を商品化しビジネスとして展開する…、多様性に富んだアジアの経験をもとに人々の共生に資するような21世紀の文化を構想する…などなど、コースが対象とする学術的領域は無限に広がっています。一人ひとりの学生が文化の持つ「力」を生かすことができるように、「地域」「共生」「比較」をキーワードとしながら、既成の枠にとらわれない独創的な教育・研究を行います。

多和田 裕司 教授

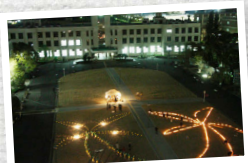


文化資源 コース

文化の魅力を知り、社会で生かすためのアイデアについて「ガクモン」します。美術や演劇、音楽などの芸術、また文化財と呼ばれるモノだけでなく、B級グルメやスマホゲーム、ガムの包み紙に至るまでさまざまな文化的所産に価値を見出し、これらを「文化資源」として学問的に検討する方法を学びます。また、それらを広く社会に発信していくにはどうすればよいかを考えていきます。

美術や演劇、臨床芸術、そして観光学を専門とする教員のもと、学生にはアートイベントの企画や観光メディアの制作など、実践的な取り組みを通して、「文化」「芸術」をよりよい形で社会に生かす手法を身に付け、かつ「文化をおもしろがる」センスを持った人材となることを期待します。

菅原 真弓 教授



イノベーション・ジャパン2018に出展!

2018年8月30日(木)・31日(金)、東京ビッグサイトにおいて、国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)と国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の主催による国内最大規模の産学マッチングイベント「イノベーション・ジャパン2018」が開催されました。本学からは、大学組織展示と3つのシーズ展示の4テーマを出展しました。



大学組織展示

「環境・エネルギー」 ～未来の低炭素社会につながるエネルギー研究

低炭素社会実現につながる要素技術研究
一創エネルギー、蓄エネルギー、電力ネットワーク、及びデバイスに関する研究の紹介

機能創成科学教育研究センターの重川直輝センター長



「低炭素社会実現を目指す 工学研究科 機能創成科学教育研究センター」

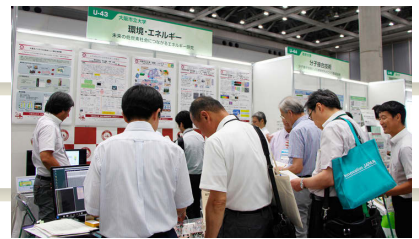
工学研究科 機能創成科学教育研究センター センター長 兼 複合先端研究機構 副機構長 重川 直輝 教授

「未来の電力システム:パルス化配電ネットワーク」

工学研究科 杉山 久佳 准教授

「木質系バイオマスを燃料にした微生物発電」

工学研究科 東 雅之 教授



「レアメタルフリーな中性水系二次電池」

理学研究科 神崎 祐貴 特任講師 / 三谷電池技術研究所(大学発ベンチャー) 三谷 諭 氏

大学組織展示の様様

今年は「環境・エネルギー」に関する研究を紹介し、創エネでは微生物発電、蓄エネでは水系蓄電池のデモ、電力ネットワークではミニチュアモデル、そして、デバイスでは各種異種材料の直接接合試料を展示しました。

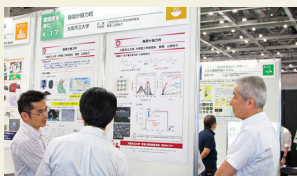
また、4月に発足した工学研究科・機能創成科学教育研究センターについても詳しく説明しました。当センターでは、ナノ科学とナノ・マイクロ工学の融合を基盤に資源・エネルギー問題を解決する機能を有する物質の創製を目指しています。

シーズ展示

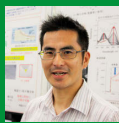
隙間が魅力的

工学研究科 山田 裕介 教授

固体触媒材料に吸着剤としての機能を加え、効率的な有害物質の無害化、低毒化を実現!



家電メーカーから環境関連企業まで、多くの方々にお越しいただきました。また、発表する技術の詳細がわかりにくいタイトルにしたことで、タイトルに惹かれてやってきてくださった方もおられました。普段、これだけ多くの企業研究者の方とお話することはないので、世の中にどのようなニーズがあるか、また、我々が開発したシーズにどのような可能性があるのか、どのように展開していくべきか、を考えるよい機会となりました。



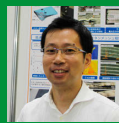
損傷許容性向上を目指した CFRP/ 金属ハイブリッド複合材料

工学研究科 中谷 隼人 准教授

軽くて強いCFRPに金属の優れた靱性・エネルギー吸収能を付与。部材ごとに特性を最適化したCFRP構造の設計が可能に。



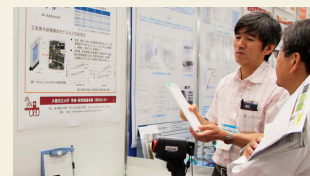
普段の学会参加ではお会いできないさまざまな業界の方からのご意見をたくさんいただき、金属材料とCFRP(炭素繊維強化プラスチック)を組み合わせるといった材料・構造のマルチマテリアル化に興味をお持ちの企業が想像以上に多いことに驚きました。本研究に対するニーズを再確認するとともに、実用化に向けた課題が明確となり、さらには企業からの個別相談や材料提供の提案があるなど、今後の発展に期待が膨らむ2日間となりました。



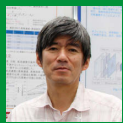
蒸発で冷える薄型パネル

工学研究科 西岡 真稔 教授

水分蒸発時の気化熱で冷却する薄型パネルを実現する技術を開発。大面積を安価で冷却することが可能に。



透湿防水膜の外枠の中に水を貯留する極めて単純な装置として、建物の壁面のような垂直面に適用できる蒸発冷却技術を提案しました。暑熱化が著しい夏の屋外用や、極めて省エネ型の装置冷却用として興味を持っていただき、学会の研究発表では接することのない多様な企業の方々に訪問いただきました。本技術に適用できる新規素材の紹介や、技術の応用先の提案などをいただき、これを縁とした共同研究・開発へと繋がる貴重な機会となりました。





RESEARCH

肥満であると糖尿病の前段階でも腎臓に負担がかかっていると判明

～合併症や既往歴、内服歴のない54名で検証～

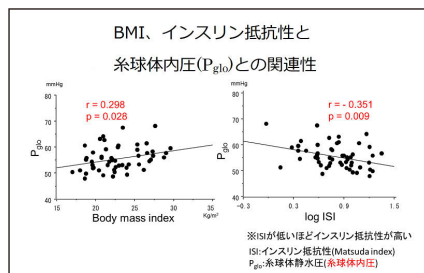


津田昌宏講師

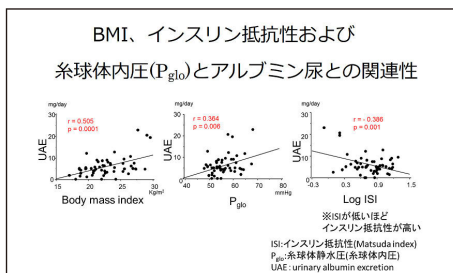
現在、血液透析が必要な末期腎不全患者は32万人を超えています。末期腎不全に至る原因の40%が糖尿病です。糖尿病を発症すると網膜症、腎症、神経障害などの合併症を引き起こすリスクがあります。このような合併症を引き起こさないためには早期発見、早期治療が肝要です。そこで医学研究科代謝内科学^{つた あきひろ} 津田昌宏講師、腎臓病態内科学^{いしむら せいし} 石村栄治特任教授らの研究グループは、合併症や既往歴、内服歴のない54名の腎移植ドナーを対象にGomezの式^{※1}を用いて肥満度、インスリン抵抗性、糸球体^{※2}内圧、アルブミン尿^{※3}の関連性について検討しました。結果、糖尿病を引き起こす前段階であっても、肥満である人は糸球体内圧が高く、腎症の判断基準

となるアルブミン尿が多いことを明らかにしました。本研究成果により、糖尿病予備軍であっても腎臓への負担を把握することで慢性腎臓病を引き起こす前に防ぐことが期待できます。なお、本研究はアメリカ糖尿病学会誌のトップジャーナルである「Diabetes Care」に掲載されました。

- ※1 Gomezの式… 血圧、腎血漿流量などから微細血管抵抗を求める式。
- ※2 糸球体… 腎臓の最小構造の主要部をなす血管で、血液をろ過することで尿を作る機能がある。内圧が高くなると、アルブミン尿の出現や腎機能障害の原因となる。
- ※3 アルブミン尿… 糖尿病性腎症の原因となる糸球体内圧の上昇・過剰ろ過により排出されるもので、増加すると血管にまつわる病気や透析のリスクが高まる。



BMI、インスリン抵抗性と糸球体内圧(P_{glo})との関連性



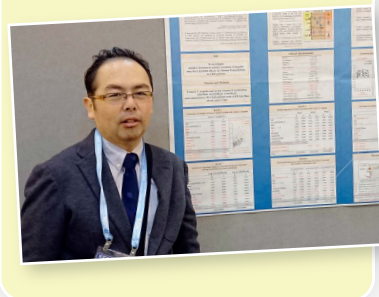
BMI、インスリン抵抗性および糸球体内圧(P_{glo})とアルブミン尿との関連性

研究者 クローズアップ



医学研究科 津田 昌宏 講師

日々の診察や研究、学会と大忙しの津田講師は、休日にご家族と過ごすことでリフレッシュしているそうです。乗り物が大好きな3歳になるお子さんと電車に乗り、公園やアスレチックに行き遊びことも多いのだとか。そんな先生は食べ歩きも趣味の一つで、中でも大好物は麺類。なんと学生時代にはお蕎麦屋さんでアルバイトもしていたこともあるそうです。リクエストがあれば、こだわりのラーメンの注文方法やお薦めのお店を教えますよ、ということでした。



EDUCATION

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択

2018年8月22日(水)、平成30年度「大学の世界展開力強化事業」の採択結果の発表があり、本学が申請した「日米をつなぐ共創的ソーシャルイノベーター育成プログラム」が採択されました。

「大学の世界展開力強化事業」は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的としています。

事業推進のコアメンバーである中島義裕教授(経済学研究科)のコメント:今年度から世界展開力強化事業として「日米をつなぐ共創的ソーシャルイノベーター育成プロ

グラム」を実施します。このプログラムでは、「COIL[※]」という教室をSkype等でつないで海外の学生と一緒に授業をします。全学生を対象にGC(グローバル・コミュニケーション)副専攻で実施するほか、多くの学部でCOIL型授業を広めていきます。また、コアコースとして海外の学生とインターンシップを行います。米国やフィリピンの学生と二週間共に活動し、広い視野から社会問題を解決できる能力を身に付けます。これから海外の学生とのワクワクするような交流のチャンスがドンドンできますので、ぜひ期待してください。

※COIL(Collaborative Online International Learning): オンラインを活用した国際的な双方向の教育手法



中島教授によるCOILを活用した授業の様子

RESEARCHERS

まる のぶひと

丸 信人 准教授 理学研究科

意外にも「高校生のときは物理が苦手だった」と語る丸准教授の人生を変えたのは『相対性理論の世界』という一冊の本でした。この本をきっかけに物理の世界に興味を持ち、宇宙の始まりの謎を解明しようと思うようになったそうです。

専門は素粒子論。素粒子とは、原子よりさらに小さい粒で、物質の最小単位です。現在の宇宙が加速膨張していることから、時間を遡ると宇宙は点から始まっていると考えられます。素粒子を研究することは、宇宙の始まりの謎に近づくこととなります。素粒子にもいろいろと種類があり、物質を作る素粒子や力を伝える素粒子など17種類ありますが、それらを説明するのに標準模型と呼ばれる理論が使われてきました。ところが、標準

模型だけでは説明できないことがあるため、丸准教授は標準模型を拡張し新たな模型を構築することに挑戦しています。既知の素粒子の5倍も存在すると思われる暗黒物質と呼ばれる目に見えない物質の解明にも取り組み、宇宙の謎に迫っています。

丸准教授は中学生に向けて講義をすることも多く、講義をきっかけに本学を志望する受験生もいるそうです。素粒子に親しみを持ってもらうため「そりうし」キャラクターを広める活動にも励み、物理ファンを増やしています。



キャラクターの「そりうし」



◆アナザーサイド

昔はサッカーをしていたという丸准教授、今は時間がなく観戦もままならないようですが、身体がなまるから、と週1回はプールに通うようになっています。そんなアクティブな面とは対照的に実はテレビっ子だったという一面も。「東京ラブストーリー」でトレンドドラマのとりこになり、今でも番組改変期は新ドラマチェックが欠かせないそうです。

のむら やすよ

野村 恭代 准教授 生活科学研究科

この夏上梓した『施設コンフリクト 対立から合意形成へのマネジメント』が好評の野村准教授は、大学生時代に精神障害者福祉施設を訪問したことがきっかけで福祉に興味を持ったそうです。大学卒業後ボランティア活動を続けながら資格を取得し、医療法人の精神科担当ソーシャルワーカーとして勤務、その間も大学院で勉強を続けたことが研究者への道につながりました。

現在の主な研究テーマは、「施設コンフリクト（施設と地域住民との間で生じる対立）」、「地域共生社会に向けたまちづくり」、「居住福祉」。実際に現場に赴くことを大切に、「施設コンフ

リクト」の事例研究のためには沖縄へ、「地域共生社会に向けたまちづくり」では、人口減少社会を想定した生活困窮者への支援のあり方を研究するために北海道へ、「居住福祉」では日本居住福祉学会の事務局長として居住問題について研究するため中国へ、と日本のみならずグローバルに活動しています。アンケートだけではわからないナマの声を聴くことができるから、とある町では自治体職員と共に500世帯個別訪問も行いました。

今年10月からはYES-FMで毎週水曜日10時45分より「ハートフルステーション」のパーソナリティも務め、活躍の場がますます増えています。



◆アナザーサイド

大学入学時、教師になりバレーボール部の熱血顧問になるつもりだった野村准教授は、子どもの頃からスポーツ好き。小学高学年のときにはスコアをつけながら野球観戦をしていたというので驚きです。大学生のときはその腕を生かし、野球部のマネージャーとして大活躍したそうです。今は趣味の美術鑑賞に行く時間が少ないのが悩みということでした。

STUDENT ACTIVITIES

応援団とコンサートバンドが地域の皆さまと交流!

2018年9月19日(水)、本学の応援団とコンサートバンドが住吉区民大ホールを会場にして開催された「敬老お祝いお楽しみ会」において、日頃の練習の成果を披露しました。この企画は、主催者の住吉区老人福祉センターより依頼を受け実現したものです。

応援団は迫力のある応援「ファイティングチア」を演舞、コンサートバンドはアンコール曲を含め7曲を演奏

しました。会場には地域のお年寄りを中心に300名近くの方がお越しになり、応援団とコンサートバンドの生き生きとしたパフォーマンスに惜しみない拍手を下さいました。

本学のクラブ、サークルは、この他にもお楽しみ会やお誕生会など地域で開催されるさまざまなイベントに協力し、地域の皆さまとの交流を深めています。

「敬老お楽しみ会」の様



❖ 西澤良記前理事長兼学長が新法人の理事長予定者に決定

2018年8月24日、大阪市と大阪府は2019年4月1日設立予定の公立大学法人大阪の理事長予定者に、前理事長兼学長の西澤良記氏が決定したと発表しました。新法人設立までの間、公立大学法人大阪市立大学及び公立大学法人大阪府立大学の法人特別顧問として設立準備に携わっていただきます。



❖ 市大グッズ情報「夏菓子のヤシアイス」大好評!

夏のオープンキャンパスを盛り上げるため、SNSを通じてアイスのアイデアを公募、集まった13件から投票により選ばれた「夏菓子のヤシアイス(ココナッツミルク味)」。今年は猛暑だったこともあり、4日間で用意した約2,000個は完売となりました。



市大印のオリジナルアイス
夏菓子のヤシアイス



オフィシャルグッズ情報は

大阪市立大学 オリジナル赤玉

サントリー創業者の鳥井信治郎氏が、本学の前身である「大阪商業学校」で学ばれた縁もあり、「堂島校舎(1892~1909)」をラベルにあしらった市大オリジナル赤玉が誕生しました!



大学サポーターだより

年々、時の過ぎゆく速度が加速化しているらしい話。20歳代は年速20キロ、これが40歳代で40キロ、更に60歳代に至れば60キロ…なんて非科学的ながら何となく納得いくな話。今年も早々年末年始の話題になります。今や風物詩というにはやや言い過ぎですが、『年内には「ふるさと寄附(納税)」しなくちゃ』はたまた『年末年始の大掃除、片付け済ませて「古本募金」しなくちゃ』と徐々に定着化しつつあるようです。皆さまの大学支援のお心に感謝しつつ、さらなるご理解、ご協力をよろしくお願いたします。



お問い合わせ 大学サポーター交流室

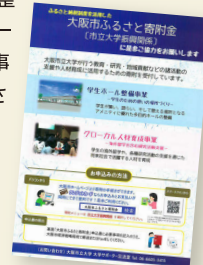
TEL:06-6605-3607

E-mail:supporter@ado.osaka-cu.ac.jp

大阪市ふるさと寄附金

ふるさと納税を活用して、大阪市立大学を支援していただけます。『市立大学振興関係』を選択してください。

学生ホール整備事業やグローバル人材育成事業などに活用されます。



お申込みは、大阪市ホームページよりお手続きください。

大阪市ふるさと寄附金

古本募金

皆さまから読み終えた本や不要になったDVD、CDなどをご提供いただき、その査定換金額を大学に寄附する取り組みです。

回収方法は2つ。ご都合のよい方で!

1 ご自宅まで取りに伺います

- 5点以上で送料無料
- 宅配業者が引き取りに伺います

2 学内の回収BOXへ

- そのままBOXに入れるだけ
(匿名での寄附となります)



大阪市立大学 古本募金

大阪市立大学広報誌

CITY UNIVERSITY

Vol.28

発行：公立大学法人 大阪市立大学

企画・編集：法人運営本部 広報室

デザイン協力：desk

発行日：2018年10月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は

大阪市立大学 法人運営本部 広報室

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

e-mail: t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます



大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

梅田サテライト

大学院創造都市研究科・大学院都市経営研究科
文化交流センター

〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>